



鈴木修次名誉教授のご逝去を悼む

総合科学部 小林 文 男

鈴木先生のご退官に際して“送る言葉”を「学内通信」に書いたのは、昭和62年の春のことであった。しかし、あれからわずか2年余、今度は追悼の文を書くことになろうとは夢にも思わなかった。実に無念かつやりきれない気持ちで一杯である。享年66歳であった。

先生は人も知る中国文学、とくに唐代詩人研究の泰斗であるだけでなく、昭和51年、東京教育大学から本学へ赴任してからは、その豊かで幅広い知見と斬新な発想を駆使して独自の「日中文化論」を構築され、国内外の学界から高い評価を受けられていた。著書30冊、

学術論文400余編という業績にはただただ驚嘆の他ない。われわれの誇りであった。

加えて、先生の偉大さは無私に徹し、誠実この上ないお人柄にあった。このことは、学生の教育・指導によく現れており、ずぼらな私などから見て「こんなにまで」と思われるほど、学生に対して優しく、鷹揚であった。社会科学研究科の設立や大学の国際化の発展にも深くかかわり、奔命に努力された。

退官後は「中国へ行ってのんびりしたい」と漏らされていたのだが、世間はそうはさせなかった。先生の霊よ、安かれ！



井川哲男係長のご逝去を悼んで

工学部 梅田 芳 広

工学部の井川研究協力係長が去る6月15日亡くなられました。突然のことで驚くとともに、一気に体の力が抜けてしまいました。

井川係長は昭和38年本学理学部に奉職され、以後経理部主計課、管財課、附属学校部を経て、昭和61年工学部用度係長、研究協力係長として26年余りにわたって職務に精励して来られました。この間、工学部にあっては、初代研究協力係長として係を軌道にのせるため努力をされる一方、国際交流並びに本学の共同研究施設である集積化システム研究センター及び遺伝子実験施設の発足・充実に陰の力となって尽力されました。

井川係長はおとなしい、口数の少ない方でした。必要なことだけをてきぱきとおっしゃいますが、自分からは御自身のことなどあまり話をされませんでした。亡くなる少し前に体の不調を口にされ、それまでは一言もそれらしきことを耳にしたことがありませんでした。後から聞くと、御家族にさえお話しになってなかったとか。我慢強い方で、また周りに迷惑をかけてはいけないという優しい心遣いだったのでと思うと胸がいっぱいになります。

井川係長、どうか安らかにお休みください。